

生涯 *gaku-yu* 学遊

かわら版

第11号

平成20年12月

発行

ひたちなか市
教育委員会
生涯学習課

☎ 029-273-0111
内線 / 335・336

ふるさとの歴史を知ろう

10月29日(水)、「甲斐武田氏発祥の地は勝田説」を最初に発表した志田諄一先生(茨城キリスト教大学名誉教授)を講師に迎え「ふるさと発見歴史講演会」がワークプラザ勝田で開催されました。

「甲斐武田氏をめぐって

～武田氏発祥から現代につながる歴史～



熱弁をふるう志田諄一先生

今では、ひたちなか市武田地区が甲斐武田氏発祥の地として知られておりますが、甲斐武田氏の地元山梨県では、「武田氏は甲斐の出」ということが、長い間、定説となっていました。しかし、昭和52年3月に、当時茨城キリスト教大学教授の志田先生が、「初期の佐竹氏をめぐって」という新説を発表し、当市が武田氏の発祥の地として大きな波紋が広がり、現在はこの説が定説となっています。

平安時代の末期、源義家の弟「義光」は、常陸国へ進出を図り、長男「義業」を久慈郡佐竹郷(現在の常陸太田市)に、三男「義清」を那賀郡武田郷(現在のひたちなか市)に土着

させました。義業の子「昌義」は中世・戦国期に常陸国に君臨した佐竹氏の祖となり、義清は地名を取って武田を名字とし、武田氏の始祖となりました。義清とその子「清光」は、武田郷周辺の豪族と勢力を争っていましたが、その行き過ぎた行為を朝廷に訴えられ、甲斐国に配流されました。新天地で義清親子は甲斐武田氏の発展の基礎を築き、その17代目が武田信玄となりました。

志田先生は、甲斐武田氏発祥の経緯などについて詳しく説明され、また、信玄の六男「信清」は、姉を頼って米沢の上杉家に仕え、その末裔が現在水戸市に居住しているなど、中世から現代まで連綿とつながる歴史について、わかりやすくお話ししてくださいました。

参加者からは、「志田先生から直に武田氏のお話を聞くことができるとても良かった。」「故郷の武田氏について十分知ることができて大変勉強になった。」「具体的な説明があり昭和50年代からの経緯がよく分かった。」などの感想が寄せられました。

毎月第1土曜日はひたちなか市教育の日です。

あたたかい家庭をめざして あかるい地域をめざして たのしい学校をめざして